

住民も事業者も みんなと一緒に 見守るネットワーク ケアサークルみま～もすえよし (鶴見区)



ケアサークルみま～もすえよし

※写真で左から順に記載

※令和4年12月時点

- 古屋 さん
(所属:デイサービスセンター ハビネスあすか)
- 松尾 さん
(所属:デイサービスセンター ハビネスあすか)
- 江田 さん
(所属:クレイン在宅ケアセンター)
- 酒井 さん
(所属:田辺薬局)
- 佐藤 さん
(所属:ひとつなぎ矢向)
- 蔭山 さん
(所属:ひとつなぎ矢向)



地域に増えた小規模な介護事業所の連携のため、事業所の垣根を越えて平成23年に立ち上げたサークル活動をきっかけに、地域に認知症の方のひとり歩きが目立っていることに気づき、サポートが必要な人を支え、見守るネットワークの構築に向けて検討が始まりました。活動の中で「健康セミナー」等の地域住民向けの医療講習イベントを開催していき、徐々に住民と専門職の方々の交流が生まれていきました。

さらに東京都大田区発の「みま～も」事業（あらかじめ登録した地域見守りカードの情報で家族等に連絡できる見守りネットワーク事業）を参考に、現在の「ケアサークルみま～もすえよし」が発足します。住民同士がお互いに顔見知りになるだけでなく、賛助会員である事業者が実際に地域貢献できる場をつくることで、一般の企業や町の商店なども含めた地域全体での見守りネットワークを構築しています。



地域見守りカード事業

外出時で具合が悪くなったり帰り道が分からなくなった時、災害時などのために、事前に緊急連絡先をカードに登録しておくしくみです。

セミナーやイベント開催

健康や生活に役立つ情報を提供しています。

ちょっとしたお茶会から「顔の見える関係に」

活動のきっかけは、地域に介護事業者が増えたこと。特に大手ではなく、地域に住んで働いているような小規模経営の事業者が多かったので「せっかくだから顔の見える関係を作りたい」と思いました。回業者はライバルではなく、地域の資源であるという考えのもとで約16名程が集まって勉強会も兼ねてお茶会を開催。

それを契機に連携して活動することで地域を支える大きな力になると考え、規約を作成して「ケアサークルすえよし」を発足。ときには外部の講師を招きながらお互いに勉強し合うために集まりました。

無理せず楽しみながら、形ある貢献を目指して

当時、地域では認知症の方のひとり歩きが目立っていました。周りに人がいるのに家に帰ることができないのです。それはお互いに顔を知らないために、声をかけることもできないからだと考え、地域でも顔の見える関係を築ければ、解決できるのではないかと思います。

そこで、継続していた勉強会に地域住民を招くようになると、どんどん人が集まるようになっていきました。さらに、地域に貢献できることはないかと考えていたところ、東京都大田区発の「みま～も」事業と出会いました。

サポートが必要な人を探しに行くのではなく、異変があったときに情報が集まる仕組みをつくる「みま～も事業」に共感し、地域にも展開するために「ケアサークルみま～もすえよし」を発足しました。ただ、大田区とは異なり、各メンバーが別の所属先の事業を持っているので、無理せず楽しみながら企画をして、地域に合った連携を模索するようになりました。

まずは「地域の一生活者」として見てもらえるように

実際に活動を始めて難しかったことは、主体が事業者であることから、どんな活動も営利的な宣伝や営業活動だと地域にみられてしまうことが多かったことです。

そのため、当時は一事業者として「ケアさん」と呼ばれており、地域の一生活者だと思っていただけるには時間がかかりました。

それでも、自治会の会合などに何度も足を運び、イベントの周知を積極的に行い続けました。掲示板にチラシを貼っていただくなど、実際に自治会の方に協力いただいたこともあります。地域との隔たりを解消するためにそのような活動を3～4年ほど行ってきました。

その後、民生委員のご協力もあり、徐々に、営業のためではなく、同じ地域の一員として見守りネットワークを構築するべく活動していることを理解してもらえるようになりました。

“まちの宝”である「人とのつながり」を生かして

団体は、これまで連携した地域住民や民生委員、医療事業者だけでなく一般企業の賛助会員などの素晴らしい人材が“まちの宝”だと話します。活動ではそのつながりで様々なイベントを企画しています。

例えば、事業所の駐車場で開催した「やきいも会」では、メンバーの元保育士のアイデアで「芋」を紙で手作りして親子に芋ほり体験をしてもらったり焼き芋を配ったり、地域内で定期的に開催している「みま～もカフェ」では、音楽演奏会やメンバーの薬剤師による健康ミニ講和などを行い、住民との会話を楽しんでいるそうです。

他にも賛助会員である地域のタクシー会社との共同企画で、UDタクシー試乗会や免許返納シミュレーションなどを行っています。

この賛助会員の仕組みは、地域と事業者が直接顔を合わせて、声をかけられるような関係づくりのために、何らかの形で地域と関わりをもつことを賛助会員の参加条件としてお願いしているそうです。

このような取組が認められ、令和4年に第10回「横浜・人・まち・デザイン賞 地域まちづくり部門」を受賞しました。



連携してさらに前向きに

実際に企画して活動するための費用を補うために資金を集めていた時、鶴見区の「つるみ・元気アップ事業補助金」を申請しました。当該事業の補助対象者となったことで、「営利目的の活動ではない」ということへの地域の理解が一気に進んだと思います。

資金集めだけでなく、活動の想いや目的をより地域に伝えるための問題がさらに前向きに改善され始めていきました。



“地域マインド”の底上げとさらなるサポートの輪の拡大へ

(酒井さん)

地域住民や事業者、メンバーの中でも活動に対する思いに温度差がある。そこで全体的な「地域マインド」(自らも地域の一員だと考えて行動する意識)を底上げしたいと思っています。

(江田さん)

今連携している事業者と一緒に関わっている方だけでなく、どこのサーフティーネットにもかからない方が気軽に立ち寄り顔見知りになれるような場所を作りたいです。

(古屋さん)

認知症の方に限らず、介護対象となる前段階の方々とも早めにつながり、「みま～も」のカード登録者数を増やしたいです。

医療介護の事業所同士だけでなく、多種多様な民間企業が地域住民と気軽に情報交換ができ、お互いに少しの異変にも気づき合い、困ったときに声を掛け合えやすくするような、自然な見守りの輪を広げる活動が進められています。

「ケアサークルみま～もすえよし」は、さらなる見守りネットワークの拡充を目指して、日々奮闘しています。

◆横浜・人・まち・デザイン賞

横浜市内での地域まちづくりに関して特に著しい功績のあった活動や、都市景観の創造や保全に寄与したまちなみを構成する建築物等を表彰して、魅力あるまちづくりをより広く進めていくことを目的としています。

「地域まちづくり部門」と「まちなみ景観部門」の二部門で実施しています。